

美しいコート

(42号 2014年7月15日)

7月12日、13日は県夏季決勝大会でした。今でも心に残っているのは、二日目のコートの美しさです。大会一日目のメインアリーナもちろん素晴らしかったのですが、二日目のサブアリーナのコートは、当日入場した者全てがちょっとした感動を覚えたのではない



でしょうか。

それもそのはず、サブアリーナは2面のバスケットボールコートがあるところですが、当日は真ん中に1面だけのコートが特別に設営されていたのです。コートサイドには約150席の観客席。電光掲示板はプラズマの大画面と正に全日本レベルのコートです。プラズマ

表示器は普通は中国大会以上のものですが、例外的に使用が認められたそうです。

このコートは大会主管の周南市バスケットボール協会ミニバス部会のみなさんが作ってくれました。1か月前には計測機器を使って正確なポイントを打ち、大会に備えていました。2面が前提のサブアリーナですので、1面用のポイントはないのです。知り合いの計測専門家に依頼し、ジュース一本で働いてもらったそうです。

12日、第一日目が終わってから、周南市ミニバス関係者、保護者そして児童まで加わり、テープを貼ったり、椅子や机を並べたり、機器の設置・点検をしたりしました。リングの高さやボードからエンドラインまでの計測もミリ単位で仕上げました。みなさんの努力で、本当に美しいコートが完成したのです。

申し遅れましたが、大会準備には、ミニバス部会の方々だけでなく、市バスケットボール協会の会長さんをはじめ、たくさんの役職の方々にもご協力をいただきました。

私が感じたコートの美しさは、実は子どもたちに最高のパフォーマンスを発揮させたいという願いを込めて最大限の準備をしてくれた人々の心の美しさだったのだと思います。

子どもたちはその期待に応えてくれました。どのゲームも子どもたちは持てる力を大いに発揮してくれました。そして、それは観る者を感動させてくれました。

最後になりましたが、夏季決勝大会の1週間前に行われた山口大会でも、大会を引き受けた山口市の関係者のみなさんの真面目で温かい心を感じました。たくさんの人に支えられてこのミニバスケットボールの活動は続いているということを改めて認識しました。

みなさん、本当にありがとうございました。